

近年の大都市の若者の職業キャリア

「第4回若者ワークスタイル調査より」

労働政策研究・研修機構 小杉礼子

「第4回 若者ワークスタイル調査」

- 大都市の若者の働き方や意識の変化を明らかにすることを目的とした調査。2001年の第1回から5年おきに実施し、第4回調査は2016年実施（調査期間 2016年8月1日～10月3日）
- 層化二段系統抽出法にて東京都の25歳～34歳の男女8000名を東京都の男女比を反映するように抽出し、郵送法とWebの併用により実施。
(第3回調査まではエリアサンプリング（地点を無作為に抽出し、現地で一定間隔で住宅を訪問し調査を依頼する調査手法）により、学生や専業主婦・夫を除いて実施。)
- 回収率：37.4%

職業キャリアの変化：第1回～第4回の調査を通しての変化

4回の調査における 25～29歳層の 学校卒業時の求人倍率 (学歴別)

	高卒		大卒	
	卒業年	新卒求人倍率(平均)	卒業年	新卒求人倍率(平均)
2001年調査 (第1回)	1990～94年	2.92	1994～98年	1.39
2006年調査 (第2回)	1995～99年	1.79	1999～03年	1.19
2011年調査 (第3回)	2000～04年	1.31	2004～08年	1.67
2016年調査 (第4回)	2005～09年	1.73	2009～13年	1.51

キャリア類型 = 離学直後の就業状況 + 現在までの就業経験 + 現在の就業状況

正社員定着：離学直後に正社員になり、その後企業間移動することなく調査時点も同じ勤務先で正社員である。

正社員転職：離学直後に正社員になり、調査時点も正社員であるが、企業間移動を経験し、かつ正社員以外の就業経験はない。

正社員一時他形態：離学直後に正社員になり、調査時点も正社員であるが、企業間移動を経験し、かつ「他形態」の状況を経験している。

他形態から正社員：離学直後は「他形態」であったが、調査時点では正社員である。

正社員から非典型：離学直後に正社員になったが、調査時点では「非典型」雇用である。

非典型一貫：離学直後は「非典型」雇用か、失業・無業、自営・家業従事であり、かつ調査時点では「非典型」雇用である。

自営・家業：調査時点に自営、または家業従事者である。

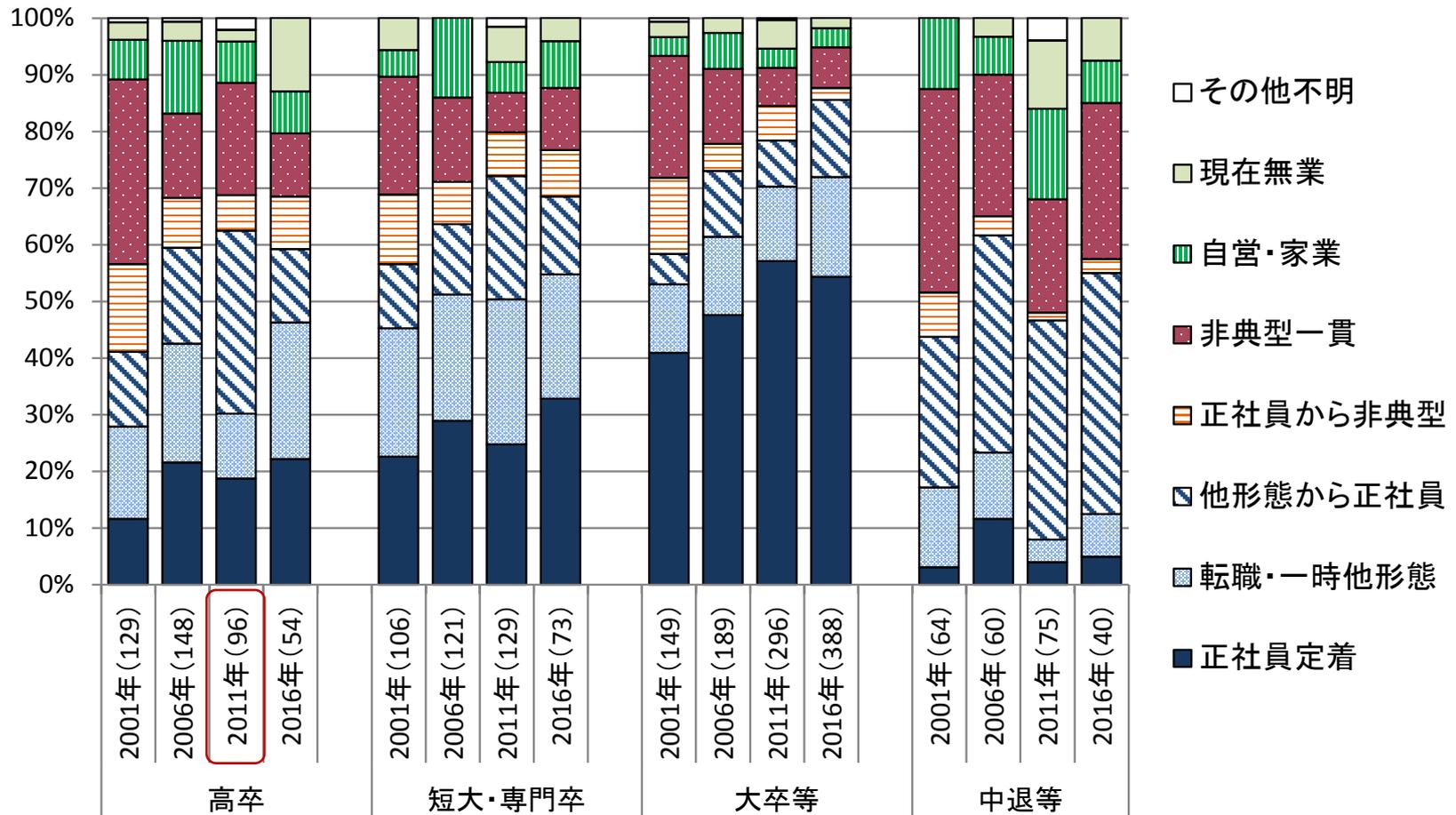
現在無業：調査時点に失業、または無業状況にある。

(第1回から継続して使用しているキャリア類型)

職業キャリアの変化：25～29歳男性

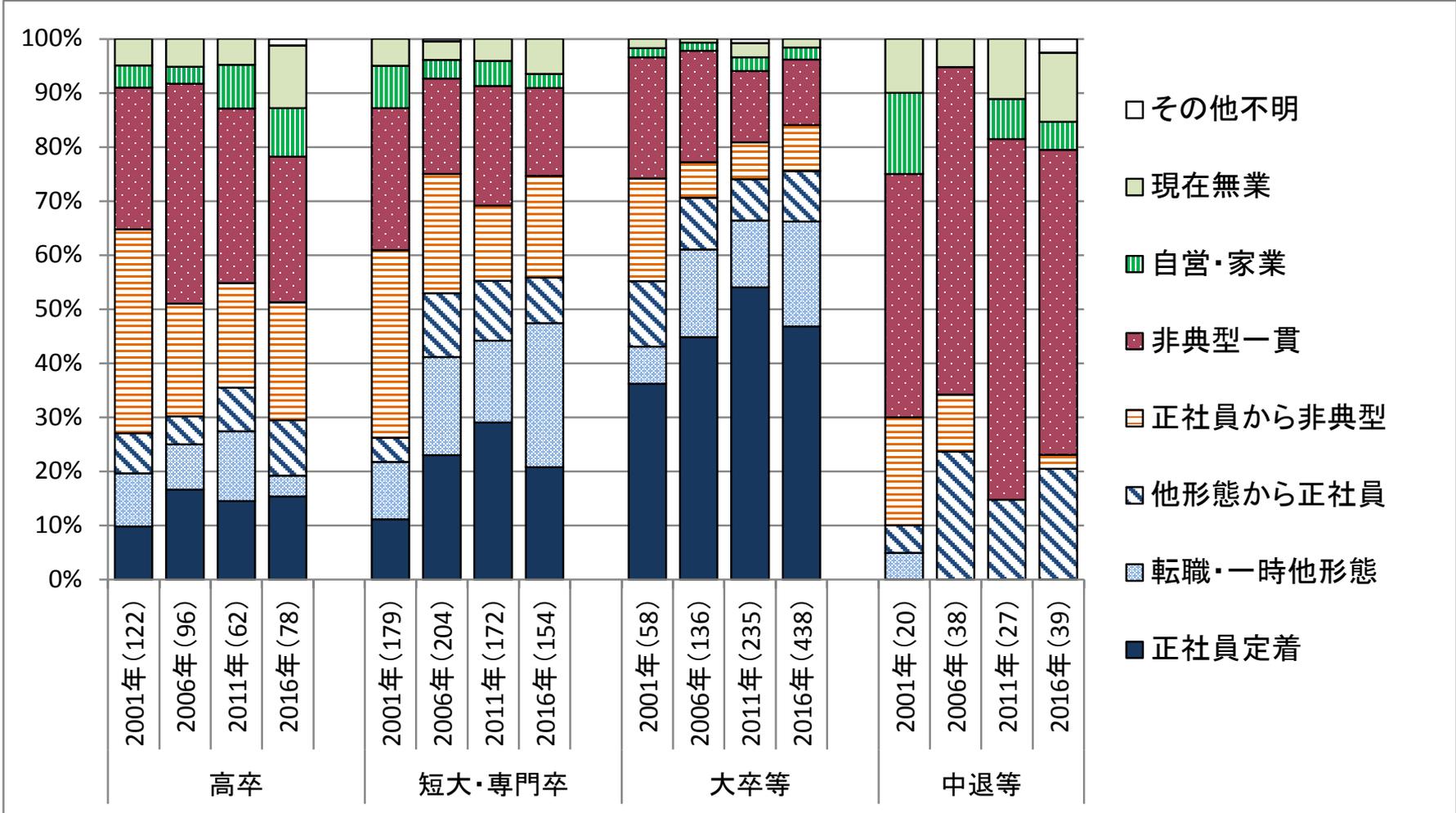
・「正社員定着」「転職」増加傾向、特に大卒の増加が顕著。現職が正社員である人は、高卒は6割、大卒は9割。→ 学歴差の拡大。

・高卒の2011年調査(不況期卒業)は、「他形態から正社員」が多く、卒業後の景気改善時に正社員に移行したと考えられる。学校中退層にも「他形態から正社員」は多い。



職業キャリアの変化：25～29歳女性

・女性も「正社員定着」が増加しているが、現職が正社員である人は、高卒3割、大卒は8割弱。
 → 学歴差の拡大。
 ・中退者は「非典型一貫」が多い状況が続いている。



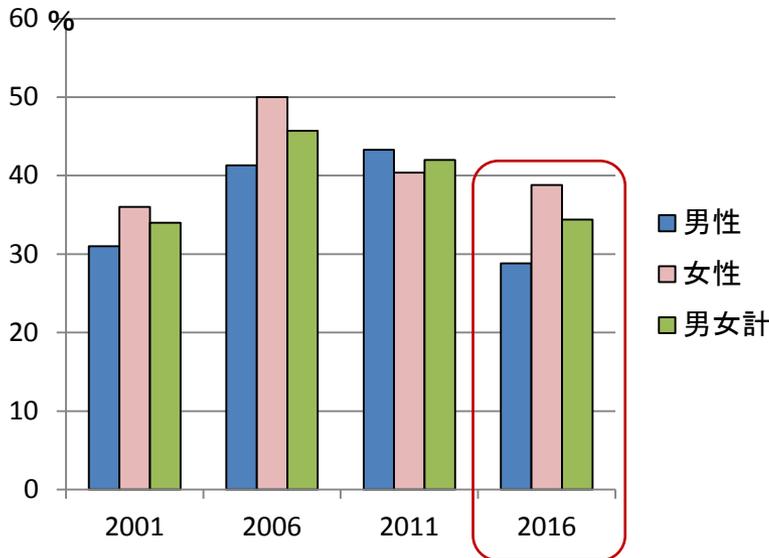
フリーター経験と学歴

25～29歳層のうち、フリーター（学生でも主婦でもないパート・アルバイト）経験のある人は2006年（45.7%）をピークに減少し2016年調査では34.4%となった。

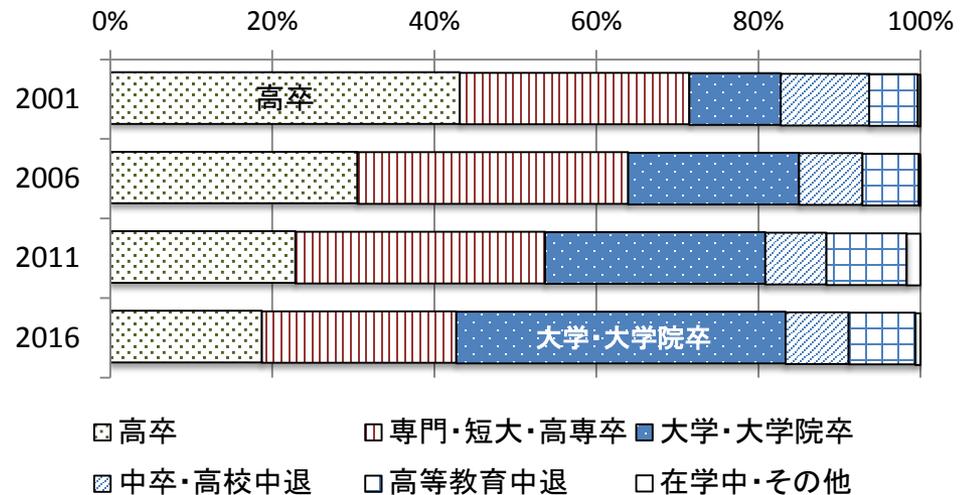
フリーター経験者の学歴構成は、2001年には高卒者が4割を占めていたが、2016年には大学・大学院卒者が4割を占めるようになった。

（背景：東京の若者の高学歴化が他地域に比べ著しく進展していることがある。／東京の高校生の進学率の上昇＋他地域からの大卒者等の流入）

フリーター経験率の変化（25～29歳層）



フリーター経験者の学歴構成の変化

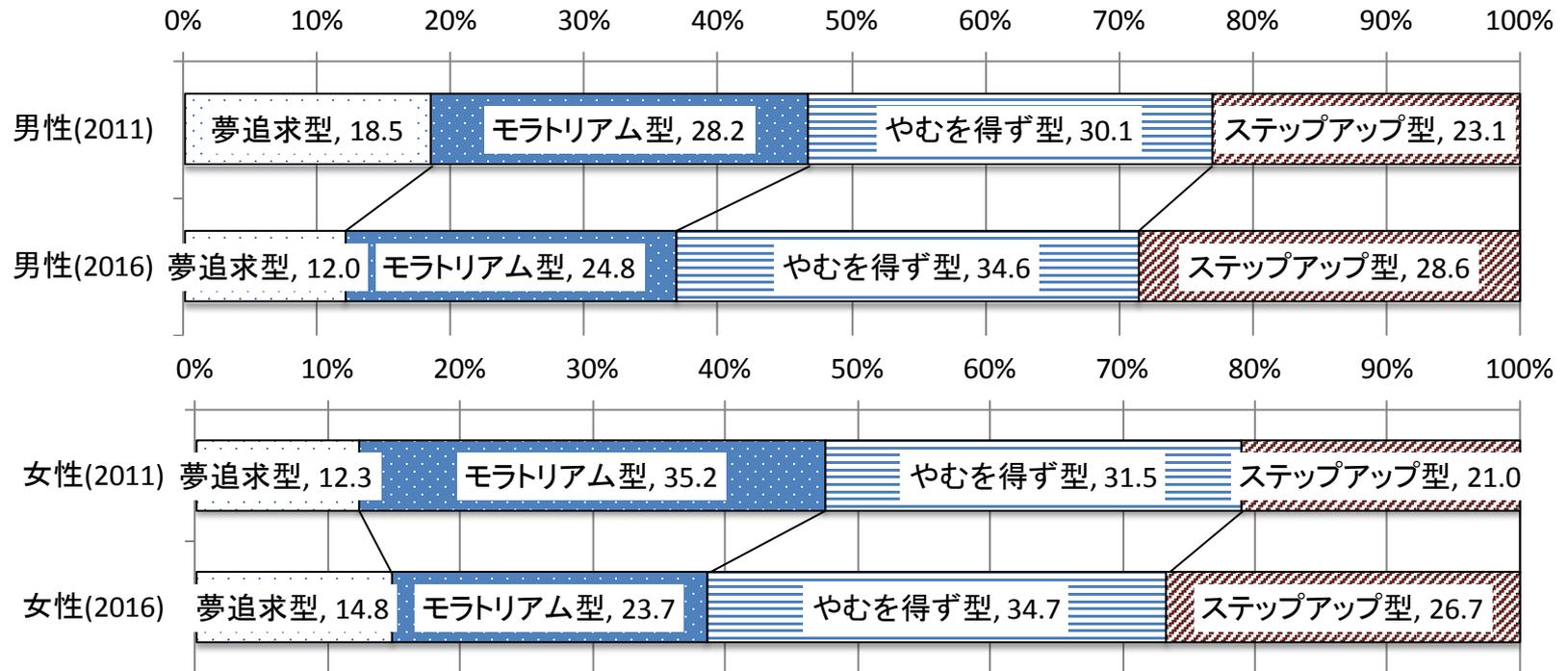


注：調査年により年齢は異なる

「やむを得ず型」と「ステップアップ型」の増加

(25-29歳層のフリーター経験者中について)フリーターになった理由やきっかけから「夢追求型」「モラトリアム型」「やむを得ず型」「ステップアップ型」(新設)に分けると、2011年に比べ2016年では、「モラトリアム型」が減少し、「やむを得ず型」、「ステップアップ型」が増加した。

→ 好況下で新たにフリーターになる人には、正社員就職に何らかの困難がある人と、つきたい仕事へのステップと考えている人が多いと推測される。



フリーター類型

- ・ ステップアップ型
- ・ 夢追求型
- ・ モラトリアム型
- ・ やむを得ず型

フリーターになった主なきっかけ、理由

- つきたい仕事のための勉強や準備、修行期間として
- 仕事以外にしたいことがあるため
- やりたいことを探したい、正社員になりたくないなど
- 正社員になれない、または家庭の事情など

「ステップアップ型」(今回調査で新設)の例

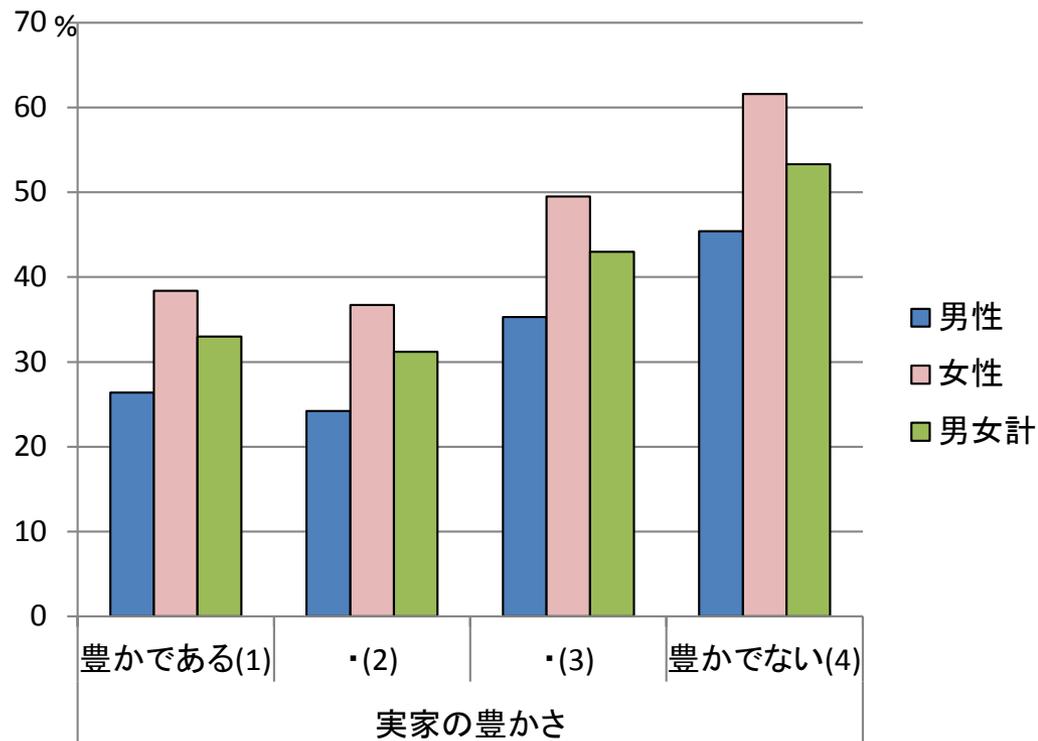
- ・ 29 歳女性／2010 年法学部卒：大卒後、すぐに公務員となったが、「タイ語をマスターするためタイに渡り、タイの大学に入学し、語学留学」をするため、2013 年に離職している。帰国後、調査時点まで 3 か月間フリーターをしており、「勤務(アルバイト)先で正社員をすすめられたが、やはりタイでの仕事(できれば通訳)をみつけないので、断りました。」
- ・ 33 歳女性／2006 年文学部卒：大卒後から 3 年間続けていた正社員を離職して「スキルアップのため」海外留学し、帰国後 1 年 4 か月ほどフリーターをしている。正社員になろうと試みているが、調査時点では正社員への離脱に成功していない。
- ・ 30 歳女性／2009 年社会学部卒：2009 年の大卒直後から正社員を 4 年間継続していたが、2013 年にワーキングホリデーで海外へ行くため離職し、ワーキングホリデーの「前後期間で」計 4 年間フリーターをしている。正社員になろうと試みているが、調査時点では正社員への離脱に成功していない。
- ・ 31 歳男性／2008 年工学部卒：2008 年の大卒後、正社員になったが、「一番やりたい仕事がフリーターからの採用」であったため、2009 年に離職して調査時点まで 7 年間フリーターをしている。正社員になろうと試みているが、正社員への離脱には成功していない。
- ・ 32 歳女性／2008 年 Resort management 学部卒(海外の大学)：2008 年に海外の大学を卒業し、「やりたい仕事がアルバイト採用しかしていなかった」ため、3 年 8 か月フリーターをしている。正社員になろうと試みたことはない。
- ・ 28 歳女性／2010 年人文学部卒：大卒後、「正社員として働きたい会社でアルバイト採用され、そのまま正社員登用を目指して働いたため」2 年間フリーターとなり、2012 年から正社員となっている。

実家の豊かさとフリーター経験

一方、実家が豊かでないと思う人ほど、フリーターを経験した人が多かった。

第1回調査時から、「実家が豊かでないと思う人では、学卒直後に正社員で就職していない割合が高い」ことを指摘してきたが、若者が非正規職に就く背景に、一定の社会階層的要因があることが、本調査でも確認された。

実家の豊かさとフリーター経験率の関係

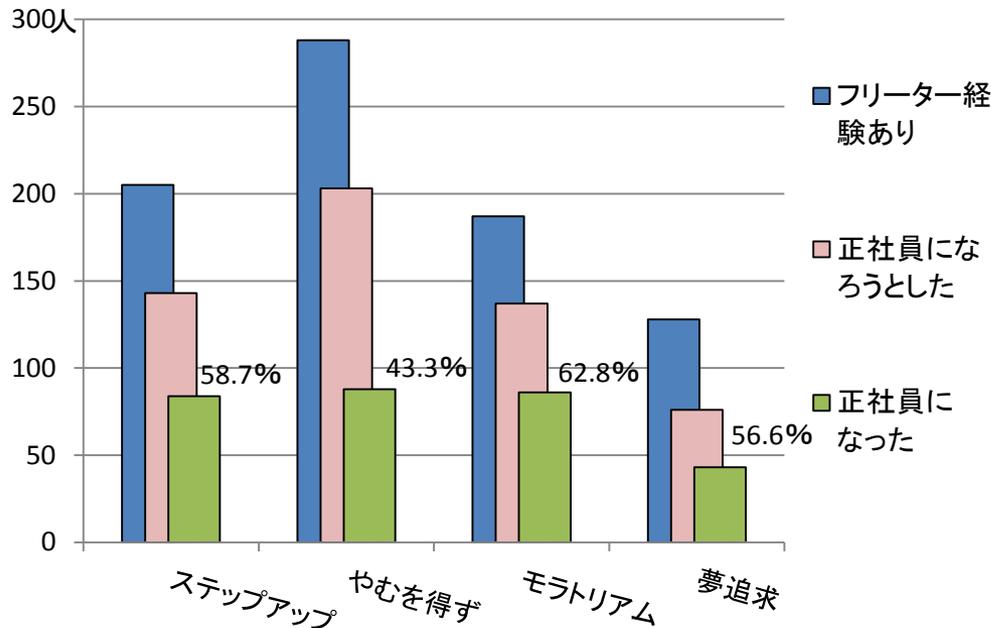


フリーターから正社員へ

フリーター経験者のうち70%（男性80%、女性65%）は、正社員なろうとしたことがあり、うち57%（男性71%、女性46%）が正社員になっていた。この割合は、フリーターになった理由とも関係し、「やむを得ず型」は正社員になろうとした人が多いが、実際になれた人は少ない。また、フリーターになってからの期間が長い人も同様に正社員にはなりにくい。

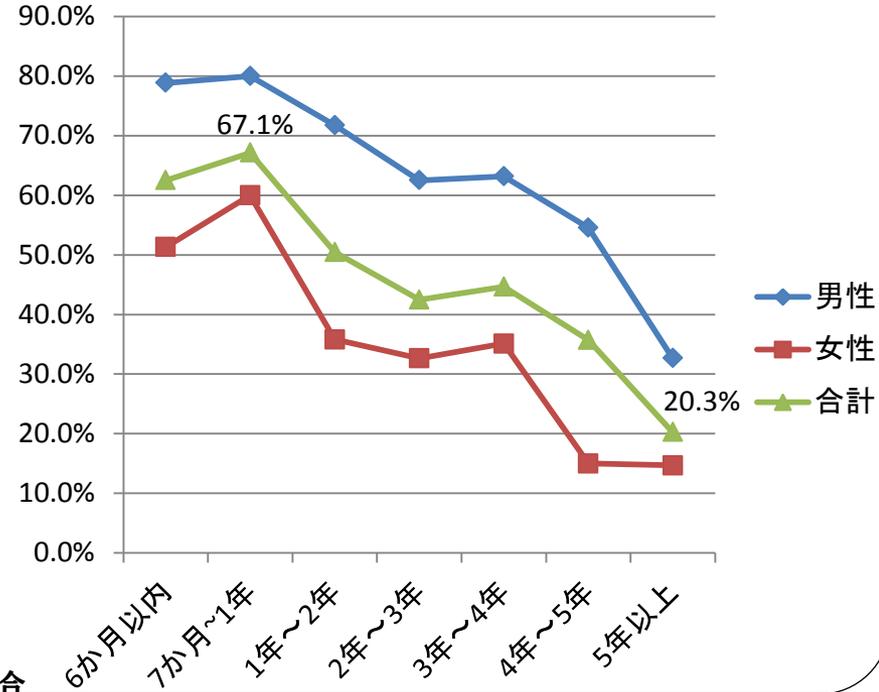
類型別

フリーター経験者、正社員になろうとした人、正社員になった人の数



フリーター継続期間別

正社員になろうとした人のうち、正社員になった人の割合



注：図中の数字は、正社員になろうとした人のうち、正社員になった人の割合

新卒就職者の離職理由の変化

離職理由として、2016年調査で最も多くあげられたのは長時間労働であった。2001年調査では「仕事が自分に合わない、仕事がつまらない」など仕事内容に関わる理由が多かった。

新卒就職後、離職した人の離職理由

2001年調査

	男性計
仕事が自分に合わない、つまらない	1位
賃金や労働時間などの労働条件が良くない	2位
他にやりたいことがあった	3位
人間関係が良くない	4位
会社に将来性がない	5位

	女性計
健康上、家庭の事情・結婚・出産	1位
仕事が自分に合わない、つまらない	2位
他にやりたいことがあった	2位
人間関係が良くない	4位
賃金や労働時間などの労働条件が良くない	4位

2016年調査

	男性計
労働時間(残業を含む)が長い	1位
他にやりたいことがあった	2位
給与に不満	3位
仕事が自分に合わない、つまらない	4位
人間関係が良くない	4位

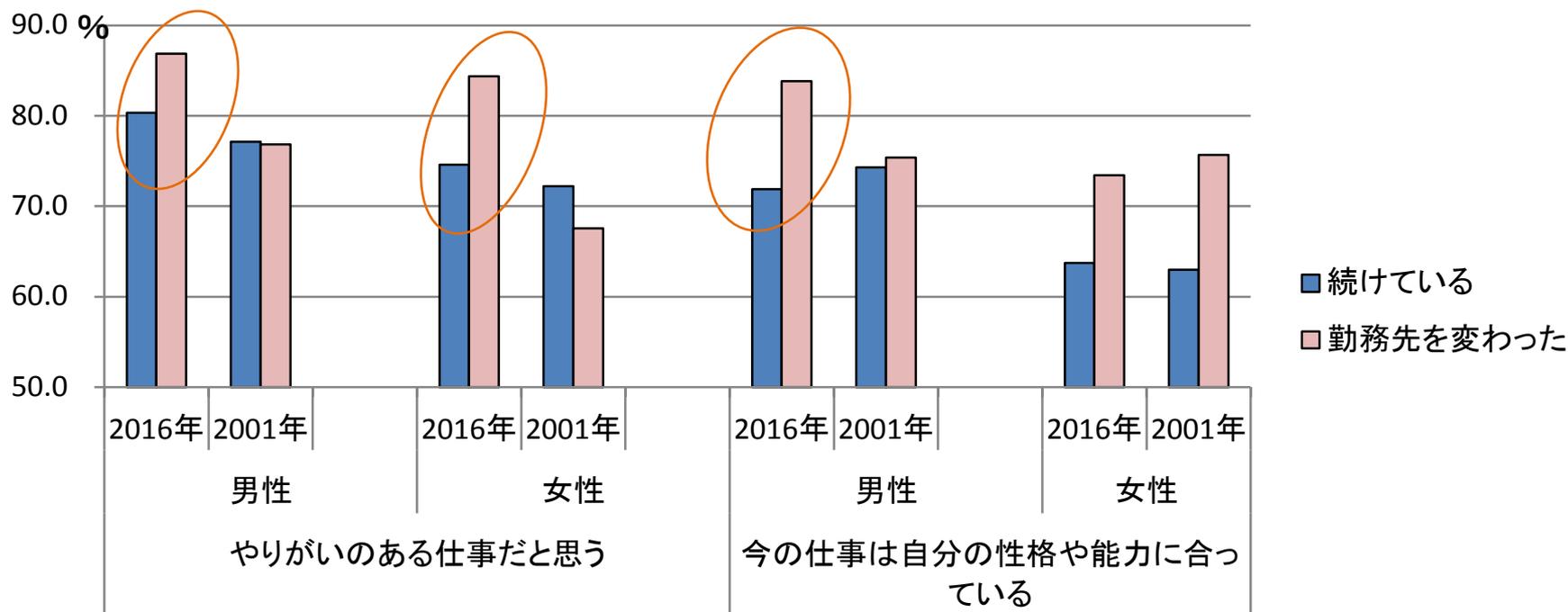
	女性計
労働時間(残業を含む)が長い	1位
健康上、家庭の事情・結婚・出産	1位
人間関係が良くない	3位
他にやりたいことがあった	4位
会社に将来性がない	5位
(仕事が自分に合わない、つまらない)	6位



再就職先の職場への「気持ち」

学卒直後に正社員となって勤続している人と、転職して他社で正社員になった人との間の現職への評価（職場への「気持ち」）を比べると、2001年段階では大きな違いがなかった可能性が高いが、2016年には、転職した人のほうがやりがいや仕事への適合感を持つ人が多かった。

定着者と転職者（正社員）の現職への「気持ち」



*4択のうち、「そう思う」または「ややそう思う」を選んだ者の割合

まとめ

- ・東京の若者においては、景気回復に伴い、新卒就職して定着するキャリアを歩んでいる人が増えた。
- ・不況期に卒業した高卒男性や学校中退の男性では、非正規雇用から正規雇用に移行している人が少なからずいた。
- ・学歴間の差は広がりつつあり、正社員での就業者は、大卒男女でその割合がますます高まっていた。これに対して、高卒女性や学校中退の女性では、非正規雇用を続ける不安定な就業状態の人が多かった。
- ・フリーター経験者は減少傾向にあるが、高学歴者が増える中で、フリーターにも高学歴の者が目立つようになった。
- ・フリーターになったきっかけ・理由により類型化すると、「やむを得ず型」「ステップアップ型」が増加した。好況下で、正社員就職に何らかの困難がある人と、つきたい仕事へのステップとしてフリーターになる人の割合が高まったと思われる。
- ・「キャリアアップ型」は高学歴で留学経験がある人などが多いことが特徴。
- ・「やむを得ず型」は正社員への行動を起こしているが正社員になれていない。また、フリーター期間が長い人も正社員になりにくい。
- ・実家が「豊かでない」と思う人で、フリーター経験者が多い傾向も見られ、過去の調査と同様、若年層の非正規雇用化の背景に社会階層的な問題も垣間見られた。
- ・新卒就職先を離職した人が挙げる理由で、最も多かったのは長時間労働であった。かつては仕事内容が多かったものが変化した。また、離職後他社に再就職した人では、定着者より、やりがいや仕事への適合感を持つ人が多かった。